

# シンボル事業のアイデア採用素材

平成23年1月17日 公共施設再配置計画担当作成

- 1 有限会社ツナミデザイン 加藤 峰雄
- 2 大和小田急建設株式会社
- 3 宇都宮大学大学院工学研究科建築計画研究室  
西城祐基・藤原誠志・佐藤栄治

## シンボル事業検討素材応募用紙

受付番号

<b>1 全体のコンセプト</b>		
<p>公共施設の再配置では、財政的、管理・運営上の問題を優先するあまり、近代的なテクノロジーや未来への希望などを否定(我慢)し、プレモダンな考え方に戻ってしまうことが問題です。今までの公共施設では、機能に見合う空間相互が明快な関係を持って配列されることによって成立していました。しかし現代の都市や社会を成立させてきた単位やプログラムの概念は、情報ネットワークなどの発達に伴って大きく変化しつつあります。</p> <p>家族の単位、公共建築の完結的プログラムの概念、都市空間のゾーニングの概念などはもはや破綻しつつあり、それぞれに自立した境界を保持できずに溶融しつつあります。</p> <p>学校や公民館などの公共施設が地域の生涯教育の拠点となり、地域コミュニティの中心としての役割を果たすためには、相互のプログラムが溶融し、様々な人が交流する風景が展開される「開かれた空間」をつくることが重要だと考えます。</p>		
<b>2 複合施設及び敷地内外の複合化の概要(規模、機能、建設・管理の主体等)</b>		
<p>①中学校の特別教室と公民館の積極的な施設の重ね合わせ(施設の複合化)</p> <p>②西側の道路沿いに事務室や会議室、音楽室(視聴覚室)、調理室などを道路沿設け、見る見られる賑やかな風景をつくる。</p> <p>③消防署の訓練場を屋上に設け、武道場も共有し地域に開かれた消防署をつくる。</p> <p>④南側は増築スペースとして担保(一時的にテニスコートとして整備)。</p> <p>将来の小中一貫校、老人施設や子育て支援施設など社会情勢に柔軟に対応できる余白を確保しておく。</p>		
<b>3 セールスポイント(費用対効果、スケジュール、手法、技術上の工夫等)</b>		
<p>①特別教室と公民館施設の積極的な重ね合わせと減築</p> <p>将来的には既存校舎内の特別教室を全て西側の共有部分に設け、既存校舎を減築します。工事費や管理運営費の大幅な削減が期待されます。</p> <p>②フレキシブルな設計</p> <p>住宅地に面した沿道に複合施設を面して配置し、街に開かれた施設とします。この部分は経済的なスパンで計画され、将来的な模様替えにも柔軟な対応ができる計画にします。</p> <p>また、近い将来の中学校改築時に特別教室を全て沿道に配置し、さらなる公共施設とのカップリングも含めたフレキシブルな対応を検討します。</p>		
<b>4 利用者及び学校教育活動に配慮した点</b>		
<p>①特別教室と公民館施設の複合化は、施設の重ね合わせによる効率化だけでなく、コミュニティスクールや生涯教育の拠点に柔軟に対応することが可能です。</p> <p>②特別教室と公民館施設の積極的な重ね合わせは、設備機器等の共有化、効率的な設備機器の導入、更新頻度の短縮化を実現し効率的な投資が可能となります。</p> <p>③生徒の教室間移動は、西側複合施設内で行われるため、日常的に地域の人々と接する機会が生まれ、相互に学び合い・教え合う機会をつくることができます。</p> <p>④忠魂碑はスクールモールと一体的に整備し、学校のアプローチとしてふさわしい顔をつくります。国道側校門は車専用の入り口とし、駐車場と一体的に整備し歩車分離を実現します。</p> <p>⑤スクールモールや西側複合施設を通して積極的に街に開き、地域の人々が寄りつきやすい環境をつくります。</p>		
<p>要項の内容を熟知し、検討素材として採用された場合は、その内容が氏名等とともに公表されることに同意のうえ、上記のとおり応募します。</p>		
応募者の氏名又は法人名	有限会社 ツナミデザイン 加藤峰雄	
応募者の住所又は所在	150-0001 東京都渋谷区神宮前4-2-22 #102	
連絡先	電話	03-5410-0447
	メール	kat@tsunami-d.com

## I. 中学校と公民館が生涯教育の拠点となる

現状の中学校は、高低差があり交通量の多い国道に面しているため、地域に対して閉じた施設になっています。

公共施設が将来にわたって持続可能な量から質への転換を図るためには、中学校が生涯教育の拠点として公民館と一体となって地域に開かれ、中学校と公民館の施設が重ね合わせながら共存してゆくことが重要だと考えます。

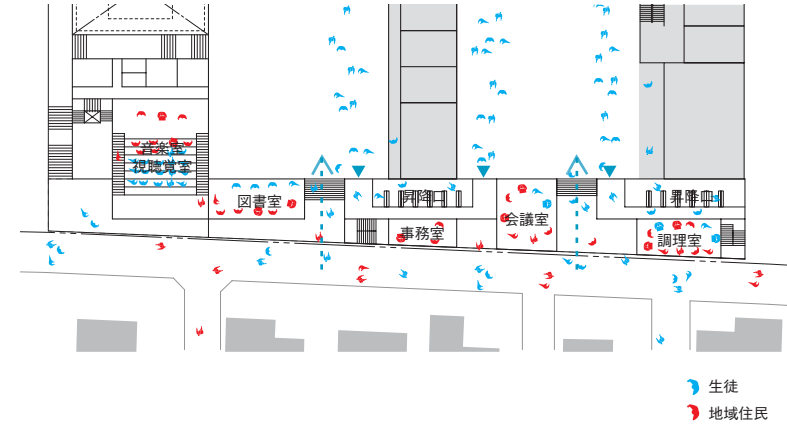
学校が、子供たちの学ぶためだけの空間から、多様な役割を備えた社会性のある空間へと変わること。

子供たちに社会との接点をもつ経験を与えること。閉じた学校から開かれた学校へ、施設の開放、重ね合わせを通して精神的にも開かれた施設を目指します。

## II. 地域の活動を街に開く - 地域の活動が公民館をつくる -

ほとんどの文化施設が、一部の人のみ利用されています。多くの人はその外観を知るのみで内部の様子を知る人は少ないのです。施設を街に開き、アクティビティが街にあふれ出すことが地域に活気を生みます。

このような活動が、地域コミュニティをつくり高齢化社会のセーフティーネットとしての公民館をつくることができると思います。



## III. 施設の重ね合わせ

公共施設を有効利用するために「施設の重ね合わせ」を提案します。

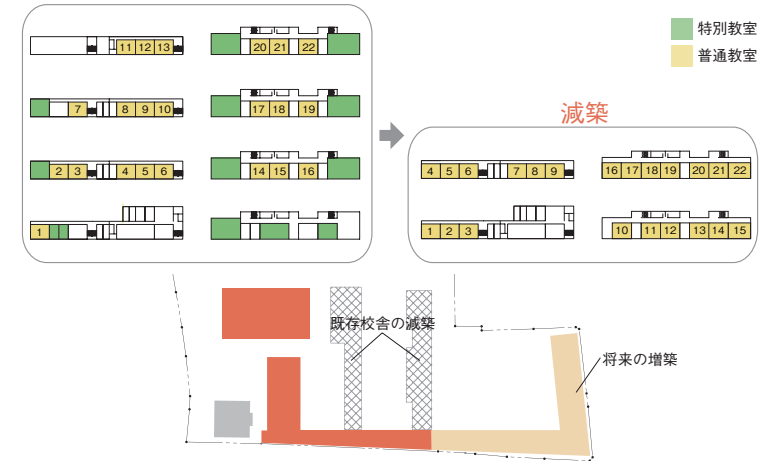
中学校の特別教室の空き時間を有効利用し公民館施設との相互利用を積極的に行います。設備の充実が行いやすくなり、地域住民と中学校とのワークショップや発表会、学び合いなどの活動が期待されます。中学校と公民館が積極的に連携して施設運営を行うような地域住民の協力も不可欠です。



## IV. 減築を視野に入れた将来計画

今後の少子高齢化と公共施設の再配置の必要性から、必要な施設は更新しながら既存の施設をうまく利用してゆく方法が必要です。

- ①特別教室と公民館施設の重ね合わせによる有効的な施設利用
- ②特別教室を重ね合わせることで、投資の選択と集中を促す。
- ③既存校舎の特別教室の一部が不要となり、4階を3階に減築することで耐用年数を延ばすことが可能。

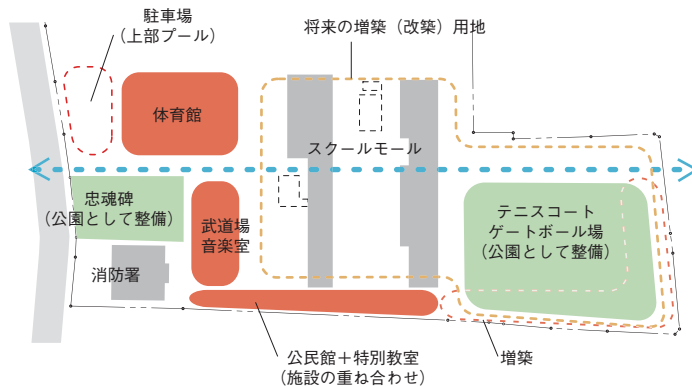


## V. 敷地利用計画

既存中学校の建て替え、公民館の拡張、またコミュニティセンターの充実、小中一貫校への対応など

将来のフレキシブルな計画の対応が可能な敷地利用計画を行う。

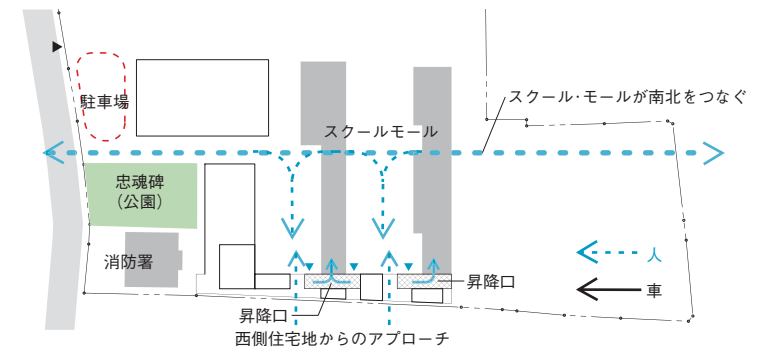
具体的には、①北側に体育館、プール、武道場など体育施設を集約し、地域開放時に管理が行いやすいようにまとめる。②東側に「地域に開かれた公民館」を設け、にぎわいのある風景を生む。③南側はテニスコートやゲートボール場、公園として整備し、将来の増築用地として担保する。

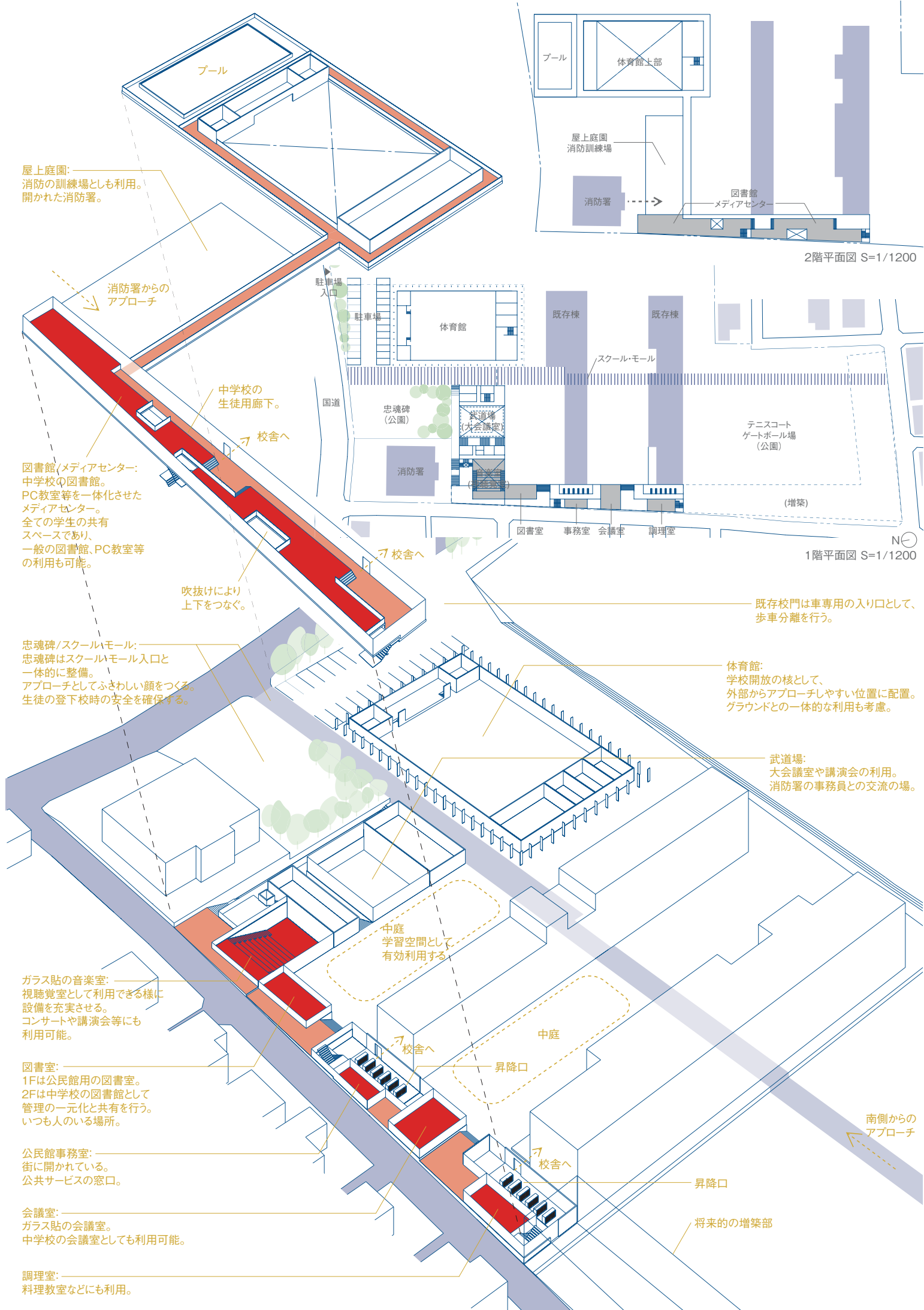


## VI. アプローチ

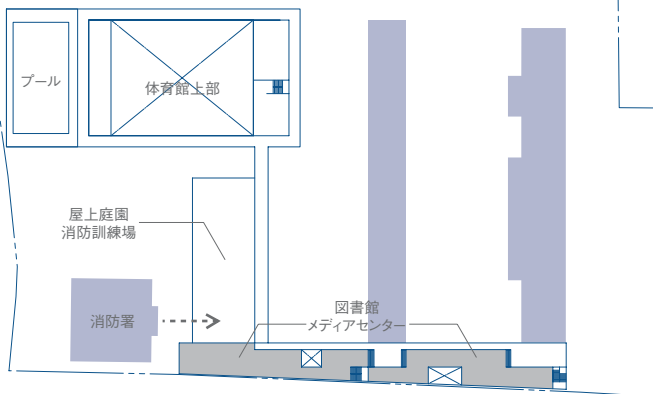
忠魂碑を公園としてアプローチと一体的に整備します。地域の核施設としてふさわしい風景をつくります。

南北をつなぐスクールモールは歩行者専用とし、南側住宅地からのアプローチにも配慮します。自動車のアプローチは現在の校門から行き、歩車分離とします。





屋上庭園:  
消防の訓練場としても利用。  
開かれた消防署。



2階平面図 S=1/1200

消防署からの  
アプローチ

図書館(メディアセンター):  
中学校の図書館。  
PC教室等を一体化させた  
メディアセンター。  
全ての学生の共有  
スペースであり、  
一般の図書館、PC教室等  
の利用も可能。

忠魂碑/スクールモール:  
忠魂碑はスクールモール入口と  
一体的に整備。  
アプローチとしてふさわしい顔をつくる。  
生徒の登下校時の安全を確保する。

既存校門は車専用の入り口として、  
歩車分離を行う。

体育館:  
学校開放の核として、  
外部からアプローチしやすい位置に配置。  
グラウンドとの一体的な利用も考慮。

武道場:  
大会議室や講演会の利用。  
消防署の事務員との交流の場。

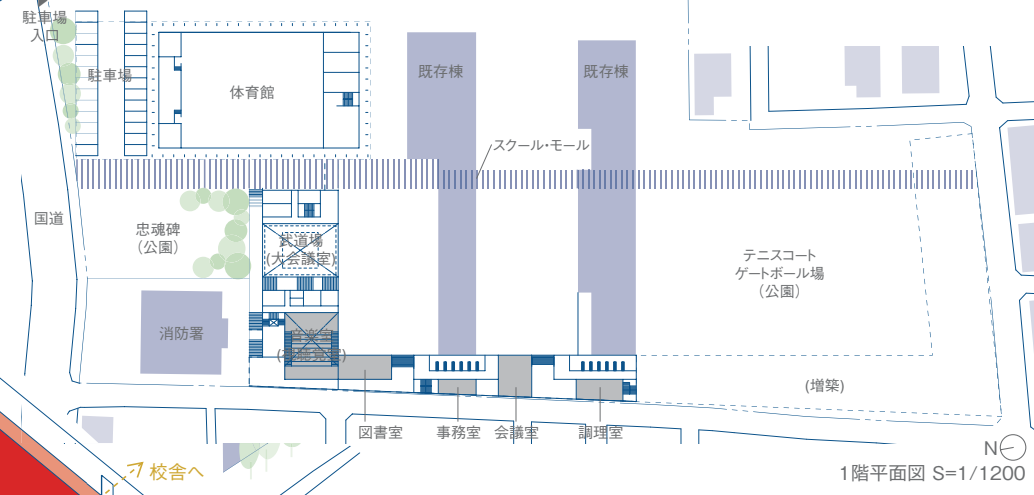
ガラス貼の音楽室:  
視聴覚室として利用できる様に  
設備を充実させる。  
コンサートや講演会等にも  
利用可能。

図書室:  
1Fは公民館用の図書室。  
2Fは中学校の図書館として  
管理の一元化と共有を行う。  
いつも人のいる場所。

公民館事務室:  
街に開かれている。  
公共サービスの窓口。

会議室:  
ガラス貼の会議室。  
中学校の会議室としても利用可能。

調理室:  
料理教室などにも利用。



1階平面図 S=1/1200

吹抜けにより  
上下をつなぐ。

中庭  
学習空間として  
有効利用する

校舎へ

中庭

昇降口

校舎へ

昇降口

将来的の増築部

南側からの  
アプローチ

**1 全体のコンセプト**

本提案は、機能の異なる施設を集約・複合化することで共用面積を削減し維持管理コストを抑え、余剰スペースの売却により新たなコミュニティを創出するものです。シンボル施設にふさわしく秦野市特産の落花生をモチーフとした外観とし、木造をベースにした建物計画（神奈川県産の木材を使用）とする等、環境に配慮した施設とすることで、地域利用はもちろんのこと県内外へ広く秦野市をPRする計画としています。また、秦野市を“秦野氏”という人物になぞらえ、公共施設のスリム化とシェイプアップにより秦野市の健康増進を図るものです。

**“脱メタボ” !! 秦野氏（秦野市）のシェイプアップ計画**

**【スリム化】**

- ・ **土地活用**… 体育館・プール・武道場等の平面利用している学校施設を公民館と消防署との複合施設へ集約することにより、新たに創出される空地为宅地として分譲する。
- ・ **行政財産の削減**… 上記施設が保有する各々の機能を集約・複合化して共用することで、共用面積（贅肉）を縮小し施設機能（筋肉）を拡充する。
- ・ **既存ストックの活用**… 閉鎖中の校舎（建物 1）を減築・改修し、公民館機能を有する施設へと再生利用する。

**【健康増進】**

- ・ **公民館機能**… 地域住民が身近に利用するコミュニティ形成の場として、教養の向上・健康増進・生活文化の振興を図る空間を提供する。
- ・ **防災機能**… 平常時は市民による防災や地域コミュニティの活動場所であり、災害時には被災者の収容や救援及び情報の伝達場所となる避難場所として防災機能を強化する。

**2 複合施設及び敷地内外の複合化の概要（規模、機能、建設・管理の主体等）**

- ・ **カルチャーエリア**… 既存校舎（建物 1）を再生し主に公民館施設として利用する。独立した建物となるが新設建物（体育館・消防署）と連携の取れた動線計画を確立し相互利用を図る。また、校舎とも動線を結びつけ、調理室・図書室・視聴覚室・音楽室等の施設の共有化を図り、将来的には夜間や春夏冬休み等の学校未利用時、地域住民や企業への校舎開放が可能となる。
- ・ **スポーツエリア**… 新設建物として体育館・プール・テニスコート・武道場を整備する。中学校施設として利用を優先するが、市民の体カトレーニングや消防署員の訓練等との相互利用を図る。プール・テニスコートをインドア化することにより、季節的利用から天候に左右されない年間を通じての利用が可能となる。また、災害時の防災拠点としての利用も可能となる。
- ・ **消防署**… スポーツエリアに複合して整備することで防災拠点としての利便性を高め、体育館・武道場は消防署員の訓練や防災訓練等にも活用する。
- ・ **広場・忠魂碑**… 忠魂碑と広場を機能的に配置し、遺族の方のみの利用から地域住民の憩いの空間を提供する。

- ・建設・管理…民間資金を活用した SPC を組成し、建設企業・運営企業等の専門企業による PPP 事業によりサービス水準の確保と維持運営管理費の削減を図る。

### 3 セールスポイント(費用対効果、スケジュール、手法、技術上の工夫等)

- ・コンセプトにあるスリム化を図る為、既存公民館・体育館・プール・武道場の敷地を売却する。これにより土地売却益と新たな税収（市民税・固定資産税）の確保が見込めると共に新しい居住者による地域コミュニティの創出と地域活性化（若返り）を図る。
- ・「建物 1」を公民館にリノベーションすることにより、既存ストックの有効活用ができ床面積の減少に伴う工期短縮や建築コストを抑えるだけでなく機能の拡充化が図れる。また、太陽光発電や緑化等による屋上利用によりエコ施設化を図り、環境学習の場としても活用できる。
- ・新設建物は、「公共建築物等木材利用促進法（H22.10）施行」に準拠した木造大断面工法を採用し神奈川県産材を使用することとで、木造による炭素の固定化と森林循環により、CO<sub>2</sub>削減に寄与する。
- ・プールの水には井水を利用し、排水を浄化してトイレの水や散水等に利用することで、ランニングコストの抑制が図れる。
- ・地域住民がいつでも気軽に安心して利用することができる地域コミュニティの拠点とすることで、地域住民の監視が働く“安全・安心な学校”“開かれた学校”としての運営が図れる。
- ・地域住民と中学校・消防署等のコラボレーションによる様々なイベント開催が可能となり、世代間の交流や社会勉強の場としての活用が図れる。

### 4 利用者及び学校教育活動に配慮した点

- ・中学校・公民館・消防署それぞれの機能に支障がなく、生徒・利用者の安全確保を最優先とした動線区分としている。
- ・建物の複合化が人の複合化を生み出し、地域コミュニティの場の創出とそこから生まれる人の交流を促進する。例えば、市民と中学生によるコラボレーション（料理教室・音楽発表・体育祭等）や消防署と中学生・市民とのコラボレーション（防火・防災教育、救急講習、防災訓練、体カトレーニング、職場・職業体験等）。
- ・計画地内の緑化や木造建物、既存ストックの再生、太陽光発電や屋上緑化など環境に配慮した施設とすることで、環境意識の醸成が図れる。

**要項の内容を熟知し、検討素材として採用された場合は、その内容が氏名等とともに公表されることに同意のうえ、上記のとおり応募します。**

応募者の氏名又は法人名	大和小田急建設株式会社	
応募者の住所又は所在	東京都新宿区西新宿 4-32-22	
連絡先	電話	03-3376-3119
	メール	sugita-t@daiwaodakyu.co.jp

※ 太枠内を記入し、2ページ以内にまとめてください。

大和小田急建設株式会社







# 脱メタボ!! 秦野氏の シェイプアップ計画 Mr.Hadano's Shape Up Project



最上階のプールは木造大断面を活かしたピーナッツデザイン  
にすることで市民の愛着が湧く。



BEFORE



市内で行われている多様なサークル活動を施設全体を使って行うことができる。

## シェイプアップによる秦野氏の 健康回復!維持!増進! その成果は…



AFTER



体育館を使った消防訓練に市民が参加できる。

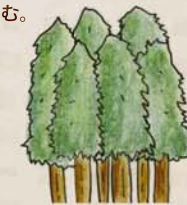


既存校舎を利用した音楽室は授業やサークル活動に利用できる。

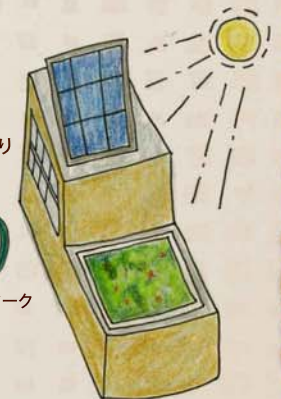


調理室では秦野の特産品を活かした料理教室を行うほか、  
地域の喫茶場所にもなる。

建築材料に神奈川県産木材を使用。  
県産木材の普及と環境にやさしい建物づくりに取り組む。



産地認証マーク



太陽光発電の設置と屋上緑化による  
省エネ化を行う。

### 「地域コミュニティの創出」

「中学校」「公民館」「消防署」のそれぞれが持っている類似施設を同時に利用することで、今までにない新しい地域コミュニティが創出されます。また消防署を公民館や体育館と複合化させることで防災拠点としての利便性を高めることができ、地域の防災意識が高まります。複合化のメリットを最大限に活かし、地域に開かれた学校運営を行います。

### 「持続可能な量と質への転換」

市民のニーズとその変化に応じて、様々な活動を受け入れられる施設となり、全体の利用率が高まります。敷地全体と建物の規模を見直すことで持続可能な量と質へ転換し、将来にわたる市民への負担を軽減します。

### 「CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献」

既存建物を有効活用することで建替時に発生するCO<sub>2</sub>排出量を抑制します。新築建物を木造にすることで炭素の固定化と森林循環によりCO<sub>2</sub>削減に寄与します。屋上庭園の設置や自然エネルギーを積極的に利用し、省エネルギーな施設運用を行います。



1 全体のコンセプト
<p>本提案のコンセプトはスケルトン方式に基づく機能転換を前提とした、①学校正門部への公民館の立地変更および複合施設の併設により地域交流拠点の形成を行う。またそれに伴う、②未利用校舎の解体、校舎の移転を含めた学校機能の集約化と高度利用、さらには、③2075年までの将来的展望を見据えた段階的な機能移行、の3点である。</p> <p>①の公民館立地を学校正面へ変更し、その附帯機能として複合施設を併設する。学校としての動線を確保した上で、公民館利用者、複合施設の動線を共存させることにより、市民と生徒の交流拠点を正門正面部に設置する。それに伴い、②現在未利用の校舎（建物1）、旧公民館を解体し、旧公民館敷地から順次、学校機能の新設、集約化を行う。集約化に対しては、敷地を高度利用することにより、公民館と学校機能の中間的な空間を設けるとともに、効率的な公民館事業と学校運営の展開を目指す。また、③超長期の学校機能のあり方を検討するため、2075年までの流動的な施設配置、機能設置計画を示す。2010年の現状から、2015年、2025年、2035年、2075年の各フェーズの機能配置、諸配置の特徴を示す。</p>
2 複合施設及び敷地内外の複合化の概要（規模、機能、建設・管理の主体等）
<p>正門部への公民館移設、および複合施設の併設は、学校の教室機能を敷地奥に設置することを考慮すると、その両者の中間部に、屋内運動施設と武道場を設置することが可能となる（添付資料2-3）。中学校による屋内運動施設と武道場の利用がない場合、公民館事業、複合施設の事業等により、その機能の有効活用が可能である配置である。また中学校が屋内運動施設と武道場を使用する場合には学校が諸機能を管理、その他の外部事業が諸機能を利用する場合には、その外部事業が諸機能を管理する明確な線引きが可能である配置でもある。</p> <p>最終的なフェーズでは、西小学校機能を現西中学校敷地に移転し、小中一貫教育が実践可能な機能配置を目指す（添付資料2-4）。また機能集約の展望としては、沼代児童館、民間の高齢者施設などを複合化することが考えられ、多世代・地域交流の拠点となりうる。</p>
3 セールスポイント（費用対効果、スケジュール、手法、技術上の工夫等）
<p>本提案の最終的なフェーズは、小中一貫教育を想定している。そのフェーズへの移行までには、現存校舎等の耐用年数に合わせた立て替えを行っていく計画</p>



を設定している。この設定は、立て替え中の機能を補完するプレハブ等の仮設機能を設置することなく立て替えが完了できるように、スケジュールと機能配置に配慮した。全ての機能配置には、当該計画の基本方針であるスケルトン方式を前提としており、機能の最適な配置を必要教室サイズも検討しつつ転換を順次行う。これにより、大幅なコストカットが見込まれる。

また小中一貫教育を行うことによる、現西小学校敷地の売却、児童館併設による現沼代児童館敷地の売却が可能であり、その売却益を見込んだ建設費の捻出も可能となる。

#### 4 利用者及び学校教育活動に配慮した点

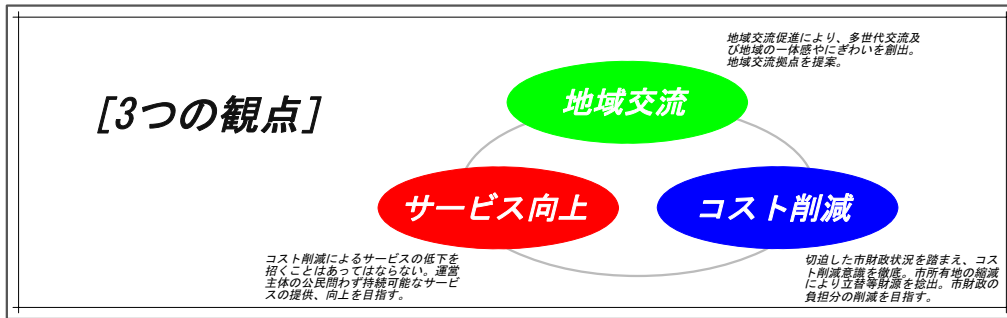
公民館の移設および複合施設の併設に関しては、立地を国道 246 号側に道路境界からセットバックした位置に配置する計画とし、そのセットバック部分に駐車場機能を付与した空地を設ける。この空地は公民館祭り等のイベントにも利用することが可能であり、隣接する忠魂碑の催事との連携をも可能とする（添付資料 2-2）。

学校機能は基本的な教室機能、管理事務機能を有するが、公民館および複合施設と機能共有が可能だと考えられる特別教室（図書室、コンピュータ室、美術室、調理室、音楽室）は、公民館および複合施設との共有化を図り、機能の高度利用を可能とする計画とする。学校と公民館および複合施設とに挟まれる空間に、上記の共有化を図った特別教室棟を配置し、双方からの利用が可能とする空間とする。これらの空間は、事務系統の境界であると共に、学校施設としてのセキュリティの問題も検討した空間であり、学校と諸施設館の緩衝的役割をはたす。

要項の内容を熟知し、検討素材として採用された場合は、その内容が氏名等とともに公表されることに同意のうえ、上記のとおり応募します。

応募者の氏名又は法人名	西城祐基, 藤原誠志, 佐藤栄治
応募者の住所又は所在	栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学大学院 工学研究科 建築計画研究室





**[基本方針]**

- 地域交流** **コスト削減** **サービス向上**

**西小中エリア公共施設の現西中学校・西公民館敷地への集約化**

→市所有の土地売却・縮減化による財源創出と維持管理費の削減  
小中一貫教育の導入・実践  
集約化による地域交流拠点の創出
- 地域交流** **サービス向上**

**複合化による施設高度利用・地域交流拠点**

→市民サービスの向上と地域交流拠点としてのにぎわい創出  
学校利用者と公民館利用者のリレーション（つながり）の創出  
施設高度利用による地域活性化
- サービス向上** **コスト削減**

**民間による施設管理・運営の積極導入**

→民間ノウハウ導入による施設高度利用及びサービスの向上  
施設維持費の市負担分の削減
- コスト削減**

**スムーズな経年変化への対応**

→プレハブ仮設を要しない建設工程による建替時におけるコスト削減  
将来を見据えた施設配置計画
- サービス向上** **コスト削減**

**柔軟な利用形態への対応**

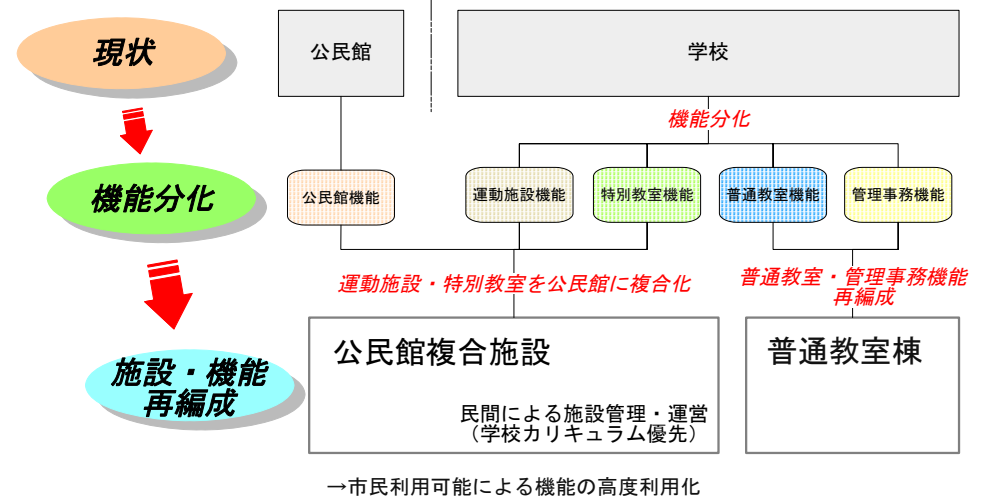
→スケルトン方式の採用による用途変換の簡易化・コスト削減  
中長期的視点からの柔軟な社会情勢への対応

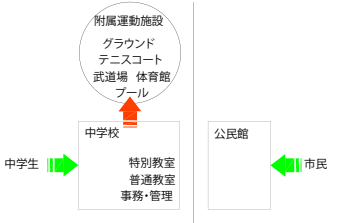
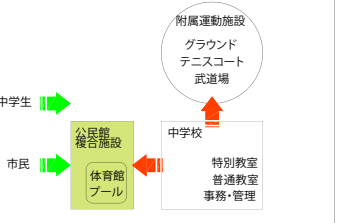
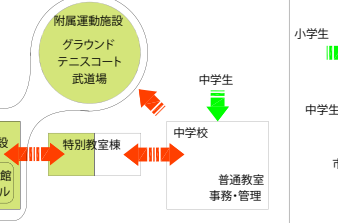
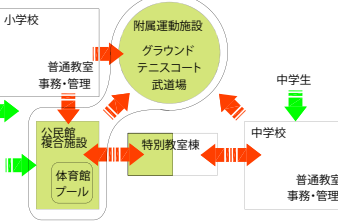
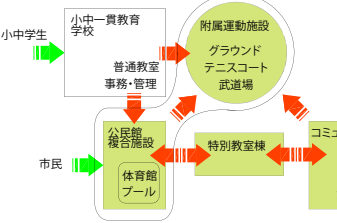




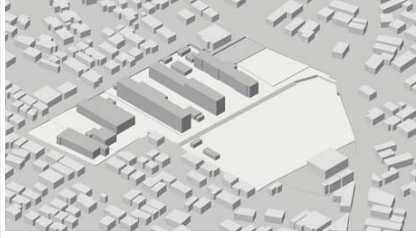

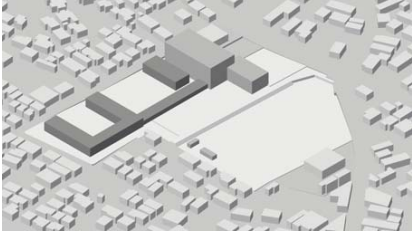
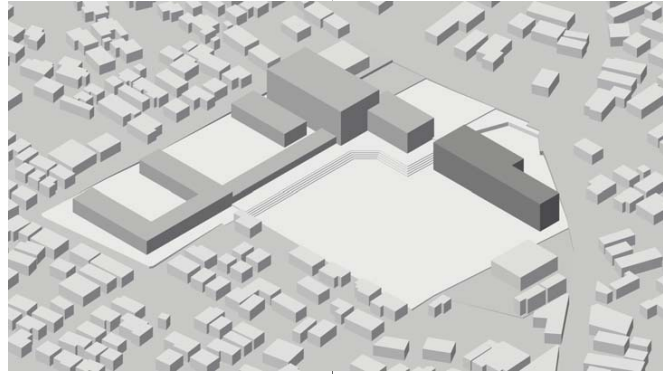
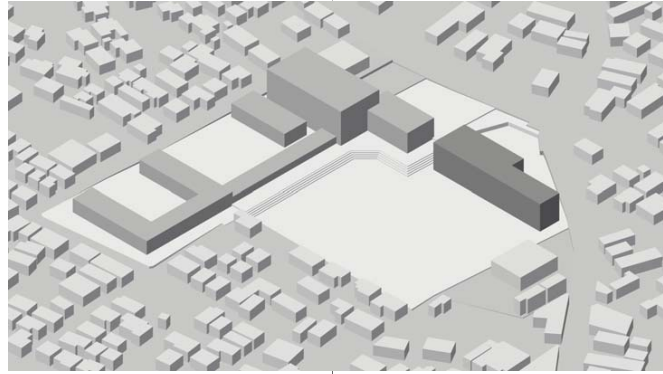
**[敷地内配置計画基本事項]**

- ◆ 国道246号側にひらく  
→地域交流拠点としてのにぎわい創出
- ◆ 生活道路側の建物高さ低層化
- ◆ 生活道路側へのコミュニティ施設\*\*誘致  
→敷地周辺との密着度の高いコミュニティ施設の実現
- ◆ 忠魂碑敷地の効果的利用  
→忠魂碑敷地のにぎわい創出による平和に対する意識高揚と教育的効果
- ◆ 公民館機能を中心とした敷地内連携・ネットワークの確立
- ◆ 各施設への独立したアプローチの確保  
→施設管理の円滑化
- ◆ プレハブ仮設を要しない立替計画

\* 生活道路：市道867号線及び市道858号線  
\*\* コミュニティ施設：児童館、高齢者施設等

**[実現手法] 機能分化及び再編成**



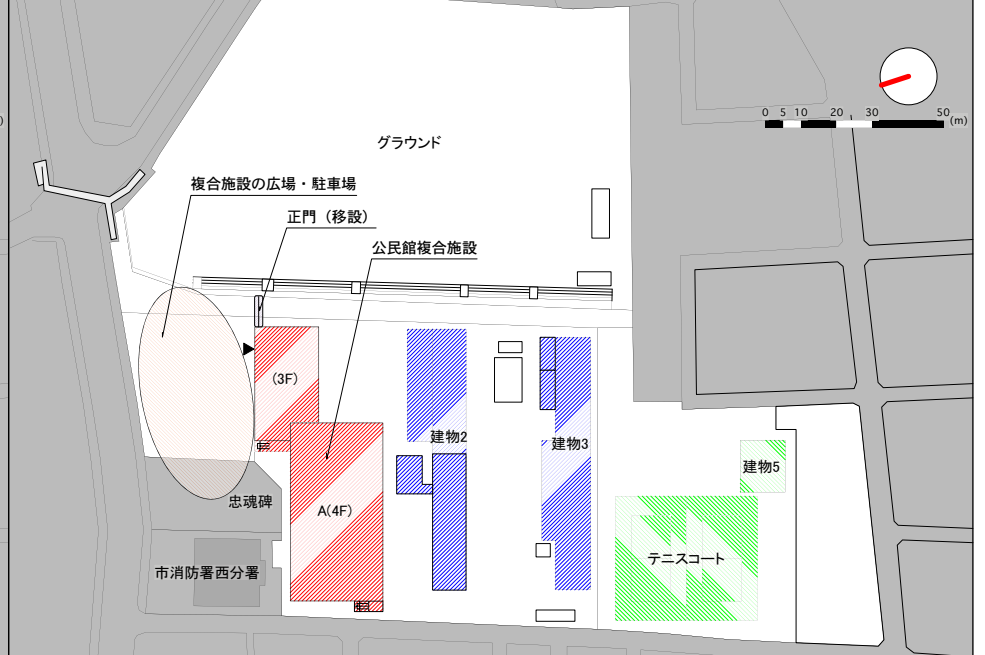
2010年(現状)		2015年		2035年		2055年		2075年	
 <p>2010年:現在、西中学校と西公民館は隣地するものの相互の機能的には結びつきはない。</p>		 <p>2015年:西中学校の体育館が2013年に耐用年数をむかえるにあたり、西公民館と西中学校の体育館とプールを複合化し、公民館複合施設とする。管理運営は民間主体とし、市民と学校はサービス購入というかたちで施設を利用する。</p>		 <p>2035年:西中学校の校舎建て替えを行う。その際、学校施設として普通教室・管理事務機能をもつ普通教室棟と、特別教室棟を建設し、学校側から直接公民館複合施設を利用できる動線を確認する。配置は、教育活動に配慮し、普通教室棟と公民館複合施設との間を特別教室棟にて繋ぎ、特別教室棟を干渉空間とし教育と活動に程よい距離感を与える。あわせてテニスコートを再配置、武道場を建て替えを行い。テニスコートと武道場を公民館複合施設管理者の管理運営とする。</p>		 <p>2055年:西小学校の校舎が耐用年数をむかえるにあたり、小学校機能を西中学校敷地に移転、統廃合を図る。西小学校の土地は売却し、財源にあてる。この際、特別教室など公民館複合施設にて機能を補完可能なものは補完し、建設面積を削減し建設費の抑制をはかる。</p>		 <p>2075年:少子高齢化の進展によって小中学校の生徒数の減少、高齢者施設の需要の増加が予測される。また、かねてから小中一貫教育の導入が検討されていることを踏まえ、西小学校の建物に中学校機能を移転し、中学校であった建物に民間の高齢者施設を誘致し、あわせて沼代児童館を統廃合し、土地売却し、財源を生み出す。</p>	
<p>  :利用関係     :民間による管理運営   :アプローチ     :公民館による管理運営                 </p>									
									
記号	施設	記号	施設	記号	施設	記号	施設	記号	施設
建物1	西中学校(北棟)	建物2	西中学校(中央棟)	A	公民館複合施設	A	公民館複合施設	A	公民館複合施設
建物2	西中学校(中央棟)	建物3	西中学校(南棟)	B	西中学校普通教室棟	B	西中学校普通教室棟	B	コミュニティ施設
建物3	西中学校(南棟)	A	公民館複合施設	C	特別教室棟	C	特別教室棟	C	特別教室棟
建物4	調理室	建物5	武道場	D	武道場	D	武道場	D	武道場
建物5	武道場	敷地外	西小学校	敷地外	西小学校	敷地外	西小学校普通教室棟	E	西小・中学校普通教室棟
建物6	プール	敷地外	沼代児童館	敷地外	沼代児童館	敷地外	沼代児童館		
建物7	体育館	民間	高齢者施設等	民間	高齢者施設等	民間	高齢者施設等		
建物8	西公民館								
敷地外	西小学校								
敷地外	沼代児童館								
民間	高齢者施設等								
公民館複合化 民間による管理運営		将来を見据えた 配置計画・機能分化		小中学校統廃合		小中一貫教育の導入 コミュニティ施設複合化		順次実情に合わせて 建て替え・再配置	



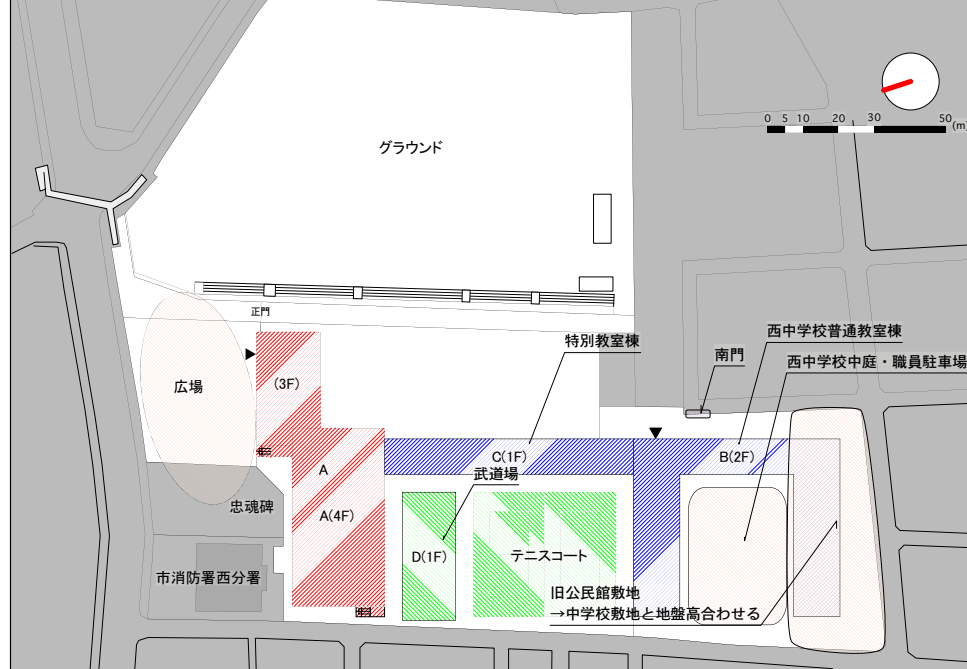
2-1:~2010年 既存



2-2:~2015年 公民館複合施設 建設



2-3:~2035年 中学校施設(普通教室棟・特別教室棟) 建設



2-4:~2055年 小学校施設(普通教室棟) 移設

